

自分が、自分の人生の主人公になるために・・・
第一回＜植山塾＞資料
(2016 年 4 月 17 日)

＜ハッピーな人生を送るための基本的認識＞

● 基本的認識

- ・宇宙→太陽系→地球→生物の歴史→人類の歴史→現在の世界→世界の中の日本→自分とはどのような存在なのか
- ・宇宙誕生(ビッグバン)(138 億年前)→地球誕生(46 億年前)→生命誕生(38 億年前)→単細胞→多細胞(10 億年前)→脊椎動物(4 億年前)→初期哺乳類(2 億 5 千万年前)→人類の誕生(600～700 万年前)
- ・社会の発展
原始共産制→古代奴隷制→封建社会→資本主義社会
(1)社会の発展は、その社会のもつ物質的条件や生産力の発展に応じて引き起こされる。
(2)社会は、その生産力により必然的に一定の生産関係(経済的な関係)に入る。
(3)生産力が何らかの要因で発展すると、従来の生産関係との間に矛盾が生じ、その矛盾が突き動かす力により生産関係が変化(発展)する。これが歴史を突き動かす基本的な力である。
(4)生産力や生産関係は、個々の人間の意図や意志とは独立して変化する。
(5)政治的・法律的上部構造は、生産関係を中心とする経済のあり方(土台＝下部構造)に規定される。

● 物質と意識(観念)との関係

- ・意識(観念)とは物質が作り出した最高の産物である。哲学の歴史は、唯物論と観念論の闘いの歴史だった。

● 矛盾が万物の変化・発展の原動力

- ・すべてのものは、内在する矛盾により、弁証法的に(正⇔反 → 合)、変化、発展する。万物は流転する。諸行無常。
- ・あらゆる問題は、矛盾により発生し、解決を前提に存在する。
(→問題は必ず解決するので、思い悩む必要はない。頭を使え。気を遣うな。)

● 明るい未来を切り開くためには

- ・問題は必ず解決する、と考える。→正しく解決するには、正しい知識、知恵、実行力が必要である。
- ・思考(夢)は必ず実現する、と考える。→繰り返し、強く思考する(夢見る)ことが必要である。
- ・他人と過去は変えることはできないが、自分と未来は変えることができる。

● 問題を解決するには、正しい認識力が必要

- ・正しい認識力を得るために、先人の知識と知恵を学べ。
「空想から科学へ」(エンゲルス)(1890)、「唯物論と経験批判論」(レーニン)(1909)、
「精神分析入門」(フロイト)(1917)。「自由からの逃走」(フロム)(1941)。「利己的な遺伝子」(ドーキンズ)(1976)

● 心と身体を解放して、充実した健康な毎日を送ろう

- ・がんじがらめになった心と身体を解きほぐし、真に解放されることにより、無限の宇宙パワー(プラーナ)を得ることができる。→ヨガ、自己催眠法などが有効である。

＜私たちは、どのような世界に生きているのか？＞

● ウィキリークス(WikiLeaks): <https://wikileaks.org/>

匿名により政府、企業、宗教などに関する機密情報を公開するウェブサイト。創始者はジュリアン・アサンジ。投稿者の匿名性を維持し、機密情報から投稿者が特定されないようにする努力がなされている。2006 年 12 月に準備が開始され、それから一年以内に 120 万を超える機密文書をデータベース化している。イラク戦争の民間人殺傷動画公開事件:2010 年 4 月、ウィキリークス上にて、2007 年 7 月 12 日のイラク駐留アメリカ軍ヘリコプターがイラク市民やロイターの記者を銃撃し殺傷した事件の動画が公表され、世界に衝撃を与えた。

<https://www.youtube.com/watch?v=5k2cluTc7Uk>

● Edward Joseph Snowden 氏によるアメリカ国家安全保障局 (NSA) による個人情報収集の手口を告発。

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%A8%E3%83%89%E3%83%AF%E3%83%BC%E3%83%89%E3%83%BB%E3%82%B9%E3%83%8E%E3%83%BC%E3%83%87%E3%83%B3>

- (1)Microsoft、Yahoo!、Google、Facebook、PalTalk、YouTube、Skype、AOL、Apple などが、NSA の通信傍受に協力していた。
- (2)日本を含めた 38 カ国の大使館に対しても盗聴を行っていた。
- (3)2006 年ごろから、日本の内閣、日本銀行、財務省などの幹部の盗聴を行っていた。

●あなたの個人情報、アメリカ国家安全保障局（NSA）にすべて筒抜けのインターネット

- ・アメリカの TIME 誌(1994 年):「インターネットは核攻撃による情報施設破壊を避けるために構想されたもの」であり、軍事目的で構築されたシステムである。核の脅威にさらされていた冷戦時代、一極集中タイプのネットワークでは、その場所が破壊されるとネットワーク全体が機能しなくなってしまうので、一部が欠けてもネットワーク全体がダウンしないインターネットが構築された。
- ・インターネット上の通信は、すべて、NSA の 800 台のスーパーコンピューターに傍受され、暗号通信も解読されている。
- ・PRISM(プリズム):NSA が 2007 年から運営する、個人情報収集のための極秘の通信監視プログラム Microsoft の SNS であるソーシャル、Google、Yahoo!、Facebook、Apple、AOL、Skype、YouTube、PaTalk の 9 つのウェブサービスを対象に、ユーザーの電子メールや文書、写真、利用記録、通話など、多岐に渡る情報の収集を意図したもの。
- ・Stellar Wind: インターネット上のあらゆる通信のメタデータ(データについてのデータ)を収集。
- ・Xkeyscore: 通信事業者が運営する光ケーブルを直接タッピング(傍受)して電子メールなどのデータを収集。
- ・Bullrun: 暗号化ソフトウェア(HTTPS とか SSL)にバックドア(通常のセキュリティー保護をバイパスする秘密の裏口)を設けて暗号を解読。

●エシュロン(Echelon)

1943 年 5 月 17 日に「英米通信傍受協定」(ブルサ協定)が結ばれ、この時にエシュロン・システムが誕生。1948 年には、米、英、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド間の秘密協定として UKUSA 協定が結ばれ、通信傍受の協力体制が作られた。1949 年には統合参謀本部安全保障局が作られ、1952 年には国家安全保障局(NSA)に改編された。この頃から、エシュロン・システムは拡大を始め、現在に至る。

・史上最強の盗聴機関

エシュロンは、ほとんどの情報を電子情報の形で入手しており、その多くが敵や仮想敵の放つ電波の傍受によって行われている。1 分間に 300 万の通信を傍受できる史上最強の盗聴機関。電波には軍事無線、固定電話、携帯電話、ファクス、電子メール、データ通信などが含まれており、同盟国にある米軍電波通信基地や大使館・領事館、スパイ衛星、電子偵察機、電子情報収集艦、潜水艦を使って敵性国家や敵性団体から漏れる電波を傍受したり、時には直接通信線を盗聴したりすることで多量の情報を収集している。

・「ゾウの檻」

日本には、青森県の三沢飛行場近くの姉沼通信所に傍受施設(通称「ゾウの檻」)が存在し、1,000 人単位の NSA 要員が詰めている。沖縄県楚辺通信所にあった「ゾウの檻」は、2007 年に撤去された。1983 年の大韓航空機がソ連の戦闘機に撃墜された時のパイロットとソ連軍との交信通話が、三沢の傍受施設により傍受されたことは有名。

●世界一の経済力(軍事力)を持つ米国

- ・世界一の金融大国。揺るぎない基軸通貨ドル。
- ・世界一の GDP(全世界の約 25%を占める)。2 位:中国、3 位:日本、4 位:ドイツ。
- ・世界一の農産品輸出国:世界輸出シェアの 10%を超え、6%前後のオランダ、ブラジル、ドイツを大きく引き離している。
- ・世界一の産油国:シェールオイル(Shale oil)の増産により、サウジアラビア、ロシアを抜いて世界一になり、最近では、「サウジアメリカ」と呼ばれるようになった。
- ・世界一の軍事大国:6,100 億ドル(約 67 兆円)(2014 年)(全世界の軍事費の約 40%を占める)。2 位:中国(2,160 億ドル)、3 位:ロシア(845 億ドル)

●戦争は米国の公共事業

軍需産業は、米国最大の産業であり、また、米国は世界最大の武器輸出国でもあるので、「雇用確保」と「米国経済の安定と成長」のために、米国は、国策として、世界中で、常に戦争を仕掛け、戦争を拡大することを必要とする。2001 年の「9.11 同時多発テロ」は、アフガニスタンに戦争を仕掛けたい米国政府の自作自演テロであったし、2003 年に、「幻の大量破壊兵器」をねつ造して、イラク戦争を仕掛けたことは、まだ記憶に新しい。多くの共和党、民主党議員は、自分の選挙区の軍需産業を守るために、国防費の削減に激しく抵抗する。これが、「戦争は米国の公共事業」である、といわれる所以(ゆえん)である。

・「9.11 同時多発テロ」自作自演の証拠動画(下記以外にも多数ある。「911 陰謀」で検索を！)

https://www.youtube.com/watch?v=QVqkDZSnO_Y

●軍産複合体(Military-industrial complex, MIC)

軍産複合体とは、軍需産業を中心とした私企業と軍隊、および政府機関が形成する政治的・経済的・軍事的な勢力の連合体を指す概念である。この概念は、特に米国に言及する際に用いられ、1961 年 1 月、アイゼンハワー大統領が退任演説において、軍産複合体の存在を指摘し、それが国家・社会に過剰な影響力を行使する可能性、議会・政府の政治的・経済的・軍事的な決定に影響を与える可能性を告発したことにより、一般的に認識されるようになった。

<「仕事とお金」=通訳案内士で1億円稼ぐ方法>のヒント

●サミュエル・ブラナン(Samuel Brannan)

・「ゴールドラッシュ」で金を追い求めた人たちには金持ちが現れず、「金を掘らなかった人」が金持ちになる、
ということは、いったい何が起こったのでしょうか？

1948年に米国・カリフォルニア州のサクラメント近くの川で砂金が採取された、というニュースが報じられたことから、「ゴールドラッシュ」が始まりました。ジェームズ・マーシャルという一人の大工が川底で豆粒ほどの砂金を発見したという話がアッという間にアメリカ全土に伝わり、一気に10万人以上の人が一攫千金を夢見て、サクラメントに向かったのです。

「金で当てれば一生楽に暮らせる！」金が人々を走らせる、という意味ではこれほど大規模に「人々が走った出来事」は他にありません。ただ、この「ゴールドラッシュ」での面白いエピソードは、数年後にこのゴールドラッシュを振り返って見たら、金の採掘で財を成した人は一人もおらず、大儲けしたのは「その周辺にいた3人(3組4人)だけだった」ということでしょう。

経済学者の野口悠紀夫先生は「ゴールドラッシュはネットビジネスとよく似ている」と言っていますが、その意味は、**本業に主体的に関わった人が儲けずに、その周りで知恵を使った人が儲けている**、というものです。では、ゴールドラッシュで儲けた人はどんな人なのでしょう？

・「シャベルとバケツ」で莫大な財をなす

1819年にメイン州ソーコで生まれたサミュエル・ブラナン(Samuel Brannan)が、その一人でした。印刷工として働いていましたが、その後、宗教的な活動で各地を転々と動き、サンフランシスコに居を構え、船で運んできていた時代遅れの印刷機を利用して新聞『ザ・カリフォルニアスター』を発行したり、小さな商店を開いたりしていました。

ブラナンは、ゴールドラッシュが起こった時に、ちょうど30歳。砂金が発見された土地の所有者であるジョン・オーガスト・サッターとは知り合いました。「金が出たことが知れたら、金を求めて、あちこちからヘンな奴らがやって来る。そうなったら、私の土地は彼らの好きなように荒らされてしまう。頼むから、新聞には書かないでくれ！」と哀願したサッターの頼みを、ブラナンは聞き入れません。

「金だよ、金なんだよ！」ブラナンの新聞をキッカケに、ゴールド発見のニュースはたちまちのうちに広がり、人々はサクラメントを目指します。ブラナンは案内役をしたり、サンフランシスコからサクラメントまでの蒸気船を手配したり、自分の店では、採掘者のための日用品を取り揃えました。

サクラメント郊外で「金が出たぞ!」という話を聞いたとたんに、**ブラナンがとった行動は、金の採掘に走ったのではなく、サンフランシスコで採掘用のシャベルとバケツを、手当たり次第に買い占め、それを、採掘者向けに販売することを始めたのです**。あとは、通りで「アメリカン川で金が出たよ！金だよ！」と叫べばよかったのです。なにしろアメリカ全土から、採掘人が集まってきたわけですから、無理やり高い値段で“押し付け販売”する必要などなかったのです。川底の砂を掘り起こして、バケツに放り込むシャベルも、砂の中から金を選別するために使う、底の浅いバケツ(ゴールド・パン)は、砂金掘りたちにとっては“必需品”だったのですから……。需要と供給の関係で、自然と、シャベルとバケツの奪い合いになり、値段がドンドンと高騰していきます。1個20セントで仕入れたバケツが15ドルで売れたそうです。実に、原価の150倍の値段でも、飛ぶように売れたのです。ブラナンはわずか9週間のうちに3万6000ドルを手にするようになります。

●紀伊國屋文左衛門

文左衛門が20代のある年、紀州は驚くほどミカンが大豊作だった。収穫されたミカンが江戸に運ぼうとしたが、その年の江戸への航路は嵐に閉ざされていた。江戸へ運べなくなり余ったミカンは上方商人に買い叩かれ、価格は暴落した。

当時江戸では毎年鍛冶屋の神様を祝う「ふいご祭り」があった。この祭りでは、鍛冶屋の屋根からミカンをばら撒いて地域の人に振舞う風習があったが、紀州から船が来ない事でミカンの価格は高騰していた。紀州では安く、江戸では高い。これに目をつけたのが文左衛門だった。

早速、文左衛門は、**大金を借りてミカンを買集め、家に残ったぼろい大船を直し、荒くれの船乗り達を説得し命懸けで嵐の太平洋に船出した。大波を越え、風雨に耐えて何度も死ぬ思いをしながら、文左衛門はついに江戸へたどり着く事が出来た**。この時の様子が「沖の暗いのに白帆が見ゆる、あれは紀ノ国ミカン船」とカッポレの唄に残った。

ミカンが不足していた江戸でミカンは高く売れて、嵐を乗り越えて江戸の人たちの為に頑張ったと、江戸っ子の人気者になった。

大阪で大洪水が起きて伝染病が流行っていると知った文左衛門は、**江戸にある塩鮭を買えるだけ買って、先に上方で「流行り病には塩鮭が一番」と噂を流し上方に戻った。噂を信じた上方の人々は我先にと塩鮭を買い求め文左衛門が運んできた塩鮭は飛ぶように売れた**。

紀州と江戸を往復し大金を手にした文左衛門は、その元手で江戸に材木問屋を開き、江戸城をも焼いた**明暦の大火の時には木曾谷の材木を買占めて一気に約百万両を手にした**。こうして文左衛門はしがない小商人から豪商へと出世、富と名声を掴んだ。

●今後のビジネスの主戦場は、スマホ、タブレットであり、GPSの創造的活用法が、大化けのカギとなる。

<頂戴したご質問と回答>

●原動力、志、判断力、人生で大切にしていること

- ・植山先生を動かす原動力はどのような理念なのか。(人生を爆発的に生き抜きたいという気持ち)
- ・無料でここまでなされる思いの深さ、原動力、いったいどんな熱い思いがあるのか。(同上)
- ・植山学院長が語学学校を設立される上で、目指されたことは何でしょうか。また、なぜ解散されたのか。
(会社というしがらみから解放されて、自分の人生を、自分で切り開きたいと思い独立。JTBにより、通訳案内士の地位が無力化されそうになったので解散)
- ・ハロー通訳アカデミーが成功した秘訣は、学院長のお志やお人柄以外で、何だったと考えられているのか。
(経営に関する本を読み、必死に勉強した。経営は運ではなく、実力の世界である)
- ・苦しい時、落ち込んだ時に、先生はどのようにご自身を支えておられるのですか。
(問題は、必ず解決するという唯物弁証法の考え)
- ・阪神淡路大震災の時に伊丹空港の降車場でタクシーを拾って現地かけつける、というような目標達成のための意思の強さや、とっさの機転、判断力に到達するために、日々どういうことを考え、どういう努力をしていらしたのでしょうか。(常に、現実を客観的に見ること)
- ・先生は、普段何を勉強しておられますか。(最新の科学、思想を学ぶこと)
- ・ご自分の人生で大切になさっていること。(自分と他人に対して、とことん誠実であること。ウソをつかないこと)

●起業方法、経営方法、経営哲学

- ・起業方法、経営方法、経営哲学の他、ビジネスの将来性の見極め方など。(事実を見極めること)
- ・先生が ハローを設立した時代は、まだ海外旅行に行く事も留学する事も一般的ではなく、日本人は海外に行く機会は多くはありませんでした。「通訳案内士」の資格はすでに存在してはいたと思いますがなぜその資格に、またそれを「専業」の仕事とする人材育成に着目したのかそのきっかけがあれば、お話を聞きたいです。(当時、日本には通訳案内士試験の受験専門予備校はなく、ニッチではあるが、必ず需要はあると判断したこと、また、指導科目が、英語のほか、地理、歴史、政治、経済と自分の得意分野であったこと)

●ビジネス上のアドバイス

- ・仕事の英語から、稼げる英語へのヒント・気付き。(本日のテーマですね)
- ・60 歳を過ぎたので、会社を辞めて、通訳ガイド本業で生計を立てたいのですが、仕事を安定させるコツ。
(あなたに通訳ガイドをして欲しいと思われるような通訳ガイドになること)
- ・価格を決める時にどのようにして設定されますか。(天の声に従うこと)
- ・ホームページを活用する以外に、営業力をつける具体的な方法。(営業とは需要を創造することです)
- ・どのようにすれば通訳案内士で成功することができるか。(まず、業界、通訳ガイドの現状を知ることです)

●<植山塾>は、今後どの程度の頻度、期間で行われる予定なのか。(参加者の皆さん次第です)

●受験指導

- ・昨年度の二次試験は、準備不足で不合格でした。今年度は必ず突破したく、ご指導を賜ればと思います。
(まず、下記の資料を印刷して、動画をご覧ください)
＜第2次口述試験対策特別セミナー＞の動画
<https://youtu.be/mwkL-MMx7bw>

＜第2次口述試験対策特別セミナー＞の資料
<http://hello.ac/2015.2jisemi.pdf>
- ・一次試験対策(語学と日本語科目)のアドバイス、参考書、通信講座などについてお聞きしたいと思います。
(下記をご参照ください)
動画学習コーナー(6 科目、79 講義、158 時間の動画を無料公開!)
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/aa9caa987007e8ef9f390a0a88c6e667>

音声学習コーナー(9 科目、100 講義、200 時間の音声を無料公開!)
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/89f4804d90b83a179d69e92565f0a210>

2016 年度に日本地理・日本歴史・一般常識を受験する方へ
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/6152406e5473c448e492a0997822a7c6>

2015 年度＜第1次試験問題用紙＞(全外国語、邦文科目)
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/dee5c3fcde71529b1b5f0fac6fe43f90>

＜第1次試験問題用紙＞(全外国語、邦文科目)(2004 年～2014 年)
<http://blog.goo.ne.jp/gu6970/e/5c7f59658391890571ee3af282886ff7>